

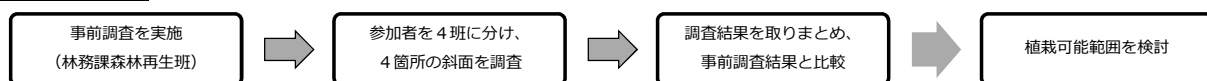
## 崩壊斜面土壌調査現地検討会の実施について

胆振東部地震によって発生した林地崩壊斜面の調査については、林業試験場が考案した手法で令和3年度より実施している。調査を実施しているのは森林再生に携わっている関係者の一部に限られていることから、調査手法の周知と普及、また調査により得られる情報の活用方法の習得を目的として、現地検討会を開催しました。

## 林業試験場が考案した調査方法



## 現地検討会の流れ



## 調査結果 (■●●事前調査結果、●●●●検討会調査結果)



- 1班…斜面中央部の雨裂が多い箇所に「悪」判定が出現。「雨裂が多い箇所は硬い土壌であり、植栽困難箇所が多い」という従来からの認識と一致している。なお、事前調査と重複している範囲の結果は概ね一致。
- 2・3班…今回の調査結果と事前調査結果において、大きな違いは認められない。
- 4班…今回の調査結果は「中」が多く出現しており、大半が「良」であった事前調査とやや異なる結果。

## 植栽可能範囲を設定…土壌調査結果、斜面傾斜及び雨裂の状況等により判定



- 1班…中・悪が大半を占めている左側上部及び中央部は、植栽検討範囲から除外。
- 2班…上部は事前調査・検討会調査いずれも中・悪が多いので、植栽検討範囲から除外。
- 3班…調査範囲の大半が事前調査・検討会調査いずれも良なので、急傾斜部以外を植栽検討範囲とする。
- 4班…検討会調査時に中・悪が出現した範囲は傾斜も急なので、植栽検討範囲から除外。

## 検討会まとめ

- 1・2班が調査した斜面は、目視では全面植栽が困難に見えたが、調査によって植栽が可能と判断できる範囲が確認できた。
- このように、調査結果を根拠に植栽可能範囲が増えることにより、森林再生の加速化につながる。
- 調査経験を重ね、視覚的判断と調査結果に基づく判定に差異が小さくなると、調査を省略できる箇所が増え、植栽可能範囲の検討に要する時間縮減が期待できます。